

2025年3月18日(火)

満月の夜空を彩る 400 機によるドローンショー

今春、本校高校を巣立つ 35 期生 109 名は、中学入学した時から全世界的な新型コロナウイルスによるパンデミックに見舞われた学年です。本校では、多くの制約を受けながらも様々な工夫をしながら、他校に先駆け対面の授業を復活させて来ました。それでも当分の間は授業や部活動をはじめ、多くの学校行事の制限を余儀なくされて来ました。

また、高校では新しい教育課程の導入の年と重なり、これまでにない授業「情報」や「探究学習」が始まりました。本校の「探究学習」では、多摩市の全面的ご協力の下、高度経済成長期に誕生したニュータウンという地域が抱える現代的課題に、高校生としていかに向き合い、社会的貢献ができるかを模索する地域連携型授業もスタートしました。こうした先駆的な問題に 35 期生は真摯に果敢に取り組んで来ました。その成果の一部は、12 月に多摩センター駅前から南へ続くパルテノン大通りで路上プレゼンテーションという全国初の市民の方々による評価（校内では路上期末考査と称する）も展開して来ました。

こうした経験を重ねる中で、教育後援会の多大なるご支援を受け、彼らの卒業を祝い、多摩市や地域の皆様方への御礼を兼ねて、14日(金)の夕刻 18:31 から 15 分間のドローンショーを開催いたしました。前例のない試みでしたが、多摩市役所の各部署の方々も大いにご協力してくださり、多摩市陸上競技場の上空 250 メートルに 400 機のドローンが描く 6 年間の思い出を絵で振り返りながら、皆様への感謝の言葉を綴ることができました。最後には、本学学園歌（作詞:阿久 悠 作曲:三木 たかし）の歌詞の一部から「この輝ける日々よ いつまでも」というメッセージで締めくくり、皆様と共に楽しむことができました。

やはり、間近で見るドローンショーは圧巻であり、描かれた絵の大きさは予想以上に大きく、文字の鮮明さに驚きました。丁度、この日は満月、しかも終了間際にはドローンの横を自衛隊機が通り過ぎて行くという「演出」もありました。そもそも、このドローンショーは、生徒たちにはサプライズであり、司会や進行を務めるわずか 5 人の代表生徒たちが約半年掛けて密かに進めてきた企画でした。夕刻から生徒を集めるために「予餞会」というあまり聞き慣れ

ない企画を立ち上げ、吹奏楽部の演奏や生徒へのインタビューを交えながら、18:30を待ちました。司会の「皆さん、後ろを見てください」というかけ声と同時にグラウンドの照明が一斉に消え、生徒達の「ワッ」というざわめきの中、静かにドローンが空に舞い上がり本校のエンブレムを描き出しました。それから15秒おきに変わる絵や文字、だれも声を出さず静かに南の空を見上げていました。ドローンショーには、阿部 裕行多摩市長はじめ本学理事長、地域の皆様、多摩市立聖小学校の先生方も駆けつけてくださり、大いに盛り上がりました。

今回のドローンショーの企画から運営にご尽力いただいたドローン飛行会社「RED CLIFF」様、当日のDVD撮影に協力いただいた「FL Photo」様にも厚く感謝申し上げます。

なお、当日の様子は、以下の時程で「多摩テレビ」コミュニティチャンネル11chの番組『スクール通信』にて放映されます。また、

■3月23日(日)～3月29日(土)

日曜日から土曜日までの次の時間帯(12分)

① 7:15～ ②13:00～ ③17:10～ ④22:30～

校長 石飛 一吉

